

令和四年度 国語 言語文化シラバス

講座名	言語文化	学年	1年
単位数	2単位	留意点	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指すため、文章作成や発表に積極的、主体的に取り組んで欲しい。
選択・必修	必修		
教科書	新言語文化（三省堂）		
副教材等	国語便覧		

「言語文化」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時数	月	単元名・単元の目標	教材	学習活動			
1	4	「言葉を旅する」 ●言語文化の現代的な価値を考える	「千年の時が与えてくれる安堵」	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章を三つに分け、小見出しをつける。 3 筆者が『枕草子』から読みとった、現代にも通じるテーマについて、具体的に説明する。 4 文章の題名がもつ意味について考える。 5 文章をふまえ、中学校までの古典の学習を振り返り、気づいたことや考えたことを意見交換し、高校での古典学習への意識づけを図る。			
2		「読書は生きる力」 ●文章に表れたものの見方・考え方を捉える	「枕草子 春はあけぼの／ありがたきもの」	1 「春はあけぼの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 筆者が「をかし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 3 「ありがたきもの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 4 筆者が「ありがたし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 5 身のまわりの物事から「をかし」「ありがたし」と感じることを探し、文章にまとめる。			
3				1 「春はあけぼの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる 3 「朝三暮四」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 4 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる。 5 二編の故事から生まれた成語の用法について話し合う。			
4					1 文章を通読し、概要を把握する。 2 登場人物の言動から感じられる印象を書きとめる。 3 文章の結末について考えをまとめる。 4 登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことを話し合う。		
5						1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。	
6							1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。
7	5	「読書は生きる力」 ●物語の解釈の多様性を考える	「ゴール」	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 登場人物の言動から感じられる印象を書きとめる。 3 文章の結末について考えをまとめる。 4 登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことを話し合う。			
8	6	「春を切り抜く」 ●構成や描写を工夫する	「フォトレポートに表す」	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。			
9					「物語は無限に展開する」 ●物語を構成する要素を捉える	「沙石集 児の胎食ひたること」	1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。
10		1 文章を音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 2 「晏子」の発言や行動の意図を考える。 3 「晏子」の発言の内容を整理する。 4 「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったか、まとめる。 5 文章の内容を完結にまとめ、発表する。					
11			1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 「下人」の心情の変化を確認する。 4 「老婆」の発言の内容をまとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。				
12				1 文章を音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 2 「晏子」の発言や行動の意図を考える。 3 「晏子」の発言の内容を整理する。 4 「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったか、まとめる。 5 文章の内容を完結にまとめ、発表する。			
13							
14	1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。						
15		6	「物語は無限に展開する」 ●物語の全体構成を捉える	「説苑 景公之馬」	1 文章を音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 2 「晏子」の発言や行動の意図を考える。 3 「晏子」の発言の内容を整理する。 4 「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったか、まとめる。 5 文章の内容を完結にまとめ、発表する。		
16	7	「物語は無限に展開する」 ●物語の展開を把握する	「羅生門」	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 「下人」の心情の変化を確認する。 4 「老婆」の発言の内容をまとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。			
17					1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 「下人」の心情の変化を確認する。 4 「老婆」の発言の内容をまとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。		
18						1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。	
19							1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。
20		1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。					
21	1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。						
22		1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。					
23	7		「夏を切り抜く」 ●素材のよさや味わいを生かす	「短歌・俳句に表す」	1 夏に関する素材を探して調べたり観察したりする 2 素材について感じたことや思ったこと、発見したことなどを書きとめる。 3 表現を工夫して、短歌や俳句を作る。		

令和四年度 国語 言語文化シラバス

講座名	言語文化	学年	1年
単位数	2単位	留意点	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。そのため、文章作成や発表に積極的、主体的に取り組んで欲しい。
選択・必修	必修		
教科書	新言語文化（三省堂）		
副教材等	国語便覧		

「言語文化」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時数	月	単元名・単元の目標	教材	学習活動
24	9	「言葉は時空を駆けめぐる」 ●物語に表れた心情表現を考 える	「伊勢物語 芥川／筒井筒」	1 「芥川」を音読し、訳文を参考にして大意を捉える。 2 前半部の「男」の行動を整理する。 3 和歌にこめられた「男」の心情を読み取る。 4 「筒井筒」の段を音読し、大意を捉える。 5 「筒井筒…」「比べ来し…」の和歌から、「男」と「女」の心情を読み取る。 6 「風吹けば…」の和歌を聞いた男の心情の変化を読み取る。 7 「芥川」「筒井筒」を描いた絵と、文章との関係について話し合う。
25				
26				
27				
28				
29				
30	9	「言葉は時空を駆けめぐる」 ●作品世界を豊かに想像する	「和歌十首 小倉百人一首よ り」 「短歌七首 近代・現代の短 歌」	1 十首の和歌を音読する。 2 十首の和歌に表現された内容を、自分の言葉で簡潔にまとめる 3 七首の短歌を音読する。 4 七首の短歌から、一首を選び、歌が詠まれた背景を想像し、メモする。 5 「和歌十首」「短歌七首」の中から一首を選び、歌が詠まれた背景や心情を想像しながら、物語を書く。
31				
32	10	「言葉は時空を駆けめぐる」 ●言葉と文化の関係を捉え直す	「野焼」	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 文章中の表現から、筆者の考え方を説明する。 3 「野焼」に対する筆者の見方がどのように変化したか、まとめる。 4 文章の中から、火について描写した特徴的な表現を抜き出す。 5 「野焼」という行為について、考えたことを話し合う。
33				
34				
35	10	「人の心は万華鏡」 ●心情表現の多様さを捉える	「オムライス」	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 特徴的な表現をもとにしながら、「男の子」の心情を説明し、心情の変化を捉える。 3 「本」を捨てたことをきっかけに、「男の子」がどのように変化したかを捉える。 4 語り手を変えて文章の一部を書きかえる。
36				
37				
38				
39				
40	10	「人の心は万華鏡」 ●言語表現の多様さを捉える	「十八史略 鶏口牛後／先從隗 始」	1 「鶏口牛後」を音読し、大意を捉える。 2 「鶏口」「牛後」が何をたとえているか、説明する。 3 「蘇秦」は比喻を用いて、何を述べたかったか、まとめる。 4 「先從隗始」を音読し、大意を捉える。 5 「死馬」「生者」が何をたとえているか、説明する。 6 「郭隗」の比喻を用いた発言の巧みさについてまとめる。 7 登場人物が比喻表現を使用した意図を考える。
41				
42	11	「人の心は万華鏡」 ●人物像を批評する	「平家物語 木曾の最期」	1 文章を音読し、大意を捉える。 2 文章中の表現から、「義仲」の各場面における心情を捉える。 3 文章中の表現から、「兼平」の心情の変化を捉える。 4 「兼平」の発言を比較し、「兼平」の心情や「義仲」への思いについて説明する。 5 「義仲」「兼平」の人物像について意見を交流する。
43				
44				
45				
46				
47				
48	11	「秋を切り抜く」 ●語句や表現技法を吟味する	「詩に表す」	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 秋に関する体験や思い、発見、感じたことなどを書きとめる。 4 効果的に伝わる語句や表現技法を用いながら、詩を作る。
49				
50	12	「共感海を越える」 ●作品の背景を想像する	「漢詩四編」	1 漢詩を音読する。 2 四編の漢詩の中から、印象に残った一行を選び、その理由を説明する。 3 それぞれの漢詩の心情を、漢詩が作られた時代や作者の背景をふまえて捉える。 4 四編の漢詩の中から一編を選び、感想や印象を文章にまとめる。
51				
52				
53				
54	12	「共感海を越える」 ●物語の役割を考える	「待ち伏せ」	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 文章中の表現をもとに「今」の「私」の心情について、考えをまとめる。 3 文章中の表現をもとに、「私」の心情の変化を捉え、説明する。 4 「私」が戦争の話を書き続けている理由について、考えをまとめて話し合う。

令和四年度 国語 言語文化シラバス

講座名	言語文化	学年	1年
単位数	2単位	留意点	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指すため、文章作成や発表に積極的、主体的に取り組んで欲しい。
選択・必修	必修		
教科書	新言語文化（三省堂）		
副教材等	国語便覧		

「言語文化」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時数	月	単元名・単元の目標	教材	学習活動
55		「共感海を越える」 ●言語文化の価値を捉え直す	「インタビュー 『人間』を描きたい」	1文章を通読し、概要を把握する。
56				2 野村萬斎が海外公演を行う意図や、狂言を通して海外で伝えたいことについて考える。
57				3 野村萬斎が「解脱」という言葉を通して、どのようなことを述べようとしているか考える。 4 聞き手が、どのような聞き方の工夫をしているか、指摘する。 5 日本の伝統的な言語芸能が海外でどのような評価を受けているか、新聞記事を参考にしながら話し合う。
58	1	「文学は主張する」 ●身のまわりの物事を批評的に捉える	「徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく」	1「神無月のころ」を音読し、大意を捉える。
59				2「柑子の木」を見た筆者の思いを捉え、筆者の考え方を読み取る。
60				3「家居のつきづきしく」を音読し、大意を捉える。
61				4「後徳大寺大臣」の例に対する「西行」の考えと比較しながら、筆者のものの見方について考える。 5文章から家のつくりを読み取り、図に描く。 6「神無月のころ」と「家居のつきづきしく」を読み比べて、共通点を探し、本文を引用しながら文章にまとめる。
62		●物語を批評的に捉える	「なめとこ山の熊」	1文章を通読し、概要を把握する。
63				2「小十郎」が出会った「熊」たちとの関わりや思いについて、それぞれ整理する。
64				3「荒物屋の主人」と「小十郎」の関係を整理する。 4「小十郎」の死後、「熊」との関係がどのように変化したか、話し合う。 5前項の話し合いをふまえ、自分の考えをまとめる。
65	2	●ものの見方・考え方を振り返る	「論語八章」	1八章の論語を音読し、大意を捉える。
66				2好きな章を選び、主張されていることを自分の言葉で言いかえる。 3前項の作業をしていく中で、考えたことを話し合う。 4好きな章を選び、その章が自分とどのように関わるか考え、自由に表現する。
67	3	●表現効果を高めようとする	「随筆に表す」	1随筆のテーマとして、自分の体験や見聞から、印象に残っているできごとを取り上げる。
68				2どのような視点や切り口からそのテーマを取り上げるか考える。 3テーマを吟味して、自分の見方や考え方、感じ方を見つめながら、表現内容を考える。
69				4その場になかった人にも様子や物事の経緯が伝わるように注意しながら、随筆を書く。 5自分の思いや考えが効果的に伝わる文章になっているかなどに注意しながら、文章を推敲する。
70		●自らの課題を決め、解釈、批評、表現を追究する	「夢十夜 第一夜」	1 探究するテーマと作品の組み合わせを決める。 *テーマと作品は、単独で考えてもよい。 *作品は、この単元以外で学んだ作品や、自分の関心のある作品でもよい。 2 活動の方法を決める。 3 選んだテーマ、作品を用いて、活動を行う。

評価の方法

- ・三観点の評価規準については、各単元ごとに授業で説明します。
- ・授業では、適宜小テストを実施する予定である。
- ・小テストは、重要語句・語法に関するものを毎時間実施し、小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・夏休み中に、学習が遅れぎみな者に対する指名補習と、進学を希望する者を対象とした実力アップ補習（希望者）を実施する予定である。
- ・評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- ・定期考査は、中間考査(2学期のみ)と期末考査(毎学期)を、それぞれ百点満点で行う予定である。
- ・グループ学習による発表学習については、担当教員の評価の他、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用する。
- ・各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。